

コロナ禍における 2020 年から 2021 年 3 月までの 教職課程センター（METTS）の取組

METTS's Activities in the Midst of the COVID-19 Crisis from 2020 to March 2021

明海大学副学長・外国語学部長
教職課程センター長

高野敬三

2020 年は、日本はおろか全世界が今までに経験したことのない新型コロナウイルスの恐怖の中で不自由な生活を余儀なく送ることを強いられた年であった。本学の先生や学生にとっても忘れることのできない年となったはずである。2020 年は明海大学創立 50 周年に当たる年であり、本来ならば明海大学の来し方行く末を模索して未来に更なる発展を遂げるための礎とする大事な年でもあり、また、東京オリンピック・パラリンピックが7月下旬から開催される年でもあった。

2019 年 12 月ころに中国武漢を発生源とされている新型コロナウイルス感染者が日本で初めて確認されたのが 2020 年 1 月、感染者で死亡が確認されたのが 2 月。2021 年 2 月 19 日現在では、日本国内の感染者数は累計で 42 万人、死者は 7,500 人、全世界での感染者数は 1 億 2,000 万人、死者数は 245 万人となっており、正にパンデミックの様相を示している。ワクチン開発も進み、日本でも外国製の新型コロナウイルスのワクチンが医療関係者から順に接種されているところであるが、2021 年においても収束の兆しは見えない。

このままでは、1 年延期され今年 7 月に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックの開催についても危ぶまれる。

人間の記憶というのも少しい加減なところもあるので、この一年を後世に記録として残す必要があると考える。以下、明海大学教職課程センターがこの新型コロナウイルス感染防止を施しどんな取組を行ってきたのか、国の動きと本学の動きとを時系列に併記して振り返ってみる。

なお、地域学校教育センターとしての取組については、別途本学 HP の地域学校教育センター内の 2021 明海大学「大学と地域連携の未来」シンポジウムに詳細が掲載されているので、そちらをご参照願いたい。

【新型コロナウイルス感染拡大への対応】

2020 年 2 月 22 日（～3 月 8 日）【教職課程センターの動き】

第 2 回オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学（UNSW）研修を実施。世界的に新型コロナウイルス感染者が拡大する中、日本からの出国、オーストラリアでの入国制限等が懸念される中、安全を確認して学生を派遣。日本語学科 2 人、英米語学科 6 人の学生が参加。

2月25日（～27日）【教職課程センターの動き】

教職勉強合宿の実施。新型コロナウイルスの問題が深刻化する直前、本学勝浦セミナーハウスで教員採用試験合格のための集中勉強合宿を実施した。教職課程を履修している日本語学科および英米語学科の3年生14名が参加。石鹸による手洗い、アルコール消毒、うがい、検温等十分な感染症対策を行った上での合宿であった。

2月27日【国等の動き】

当時の安部首相は、全国の小中高に対して3月2日から春休みに入るまでの間の臨時休校要請、大学もこうした要請に応える。

3月14日【本学の動き】

2019年度学位記授与式の開催。式典を取りやめ学部ごとの学位記授与という形式で実施。

3月14日【教職課程センターの動き】

教員免許交付。学部ごとの学位記授与の後、教員免許状交付をMETTSにて実施。

4月2日【教職課程センターの動き】

教員採用試験・教育実習特別講座の中止。4月2日からの9日間（最終日は4月30日）、10:00から15:40まで開講予定であったが、4月から大学が臨時休校となるため中止。

4月3日【国の動き】

教育実習の期間変更が要請される。文部科学省から、「令和2年度における教育実習の実施に当たっての留意事項について（通知）」が出される。この通知により、多くの学校が臨時休校中のことから、5月から予定されていた教育実習が後学期9月以降に移ることになる。

本学において教育実習を予定していた4年生29人のうち、1人が取りやめとなるとともに、27人の学生の教育実習が9月以降の実施となる。

4月3日【本学の動き】

2020年度の入学式を中止。

4月6日【教職課程センターの動き】

課題指導第1弾の開始。臨時休校が続く中、5月から実施が予定されている教育実習や7月から実施が予定されている教員採用試験の準備のため、新4年生に対して、レターパックやメール、LINE会議等で課題の送付（課題の提出締切を4/30）と指導を展開。併せて、教員採用試験受験者に対する願書指導をメール等で開始。また、例年実施してきた教員採用自治体別模擬試験を特別に自宅で受験する機会を設定。新4年生17人が受験。

4月7日【国等の動き】

国は特別措置法に基づく緊急事態宣言を7都府県に発出。千葉県知事は各学校に対して休校要請。その後、4月16日には緊急事態宣言の対象を全国に拡大。臨時休校の継続。

4月20日【本学の動き】

4月20日に順延した2020年度入学式を中止。

4月28日【教職課程センターの動き】

課題指導第2弾の開始。4年生に対して、レターパックやメール、LINE会議等で課題の送付（課題の提出締切を5/31）と指導を展開。併せて、教員採用試験受験者に対する願書指導をメール等で継続。

5月1日【国の動き】

教育実習の期間短縮が要請される。文部科学省から、「令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について (通知)」が出される。この通知により、実習期間が4週間からおおむね2週間となる。

5月13日【教職課程センターの動き】

教員採用試験面接対策講座の実施。講義棟は封鎖されていたが、特別の許可を得て、教員採用試験受験予定者に対して、面接対策講座をDVD視聴で実施。これに先立ち、学生の新型コロナウイルス感染防止のため、体温計、アルコール消毒液、除菌ウエットティッシュなどを購入するとともに、学生に対する感染防止マニュアル及び健康チェック表を準備する。

5月20日(～6月10日)【教職課程センターの動き】

講義棟は封鎖されていたが、特別の許可を得て、教員採用試験受験予定者に対する集団面接・個人面接練習講座を対面で開始。5月20日、27日、6月3日、10日の13:00から14:30、15:00から16:30の2回の面接練習講座を実施。

5月25日【国等の動き】

国は特別措置法に基づく緊急事態宣言を全国で解除。新学期からの約2か月間の臨時休校が終わり全国の小中高で授業再開。時差登校、分散登校等の実施。マスク着用、うがい、手指の消毒、三密(密閉、密集、密接)回避、ソーシャルディスタンスなど、感染予防対策のための「新しい生活様式」の運動開始。

5月25日【本学の動き】

前学期授業の授業開始。コロナ感染拡大防止の観点から、対面ではなく、新システム「manaba」活用による遠隔授業の実施。前学期は8月15日を授業終了とした。

5月27日【教職課程センターの動き】

METTS コモンズの感染防止策を講じる。METTS内の感染防止のため、ソーシャルディスタンスを取るため、机にある椅子を間引き撤去するとともに、使用禁止の場所に✕マーキングをする。この結果、通常の約1/3の20人の学生の利用を可能とした。なお、貸出品、特にコンピュータなどを使用した場合は除菌するとともに、使用した机の除菌を学生が行うようにするため、除菌液の購入と非接触型体温計を購入することとした。なお、飛沫感染防止のためのアクリルシールドを調達することとした。この結果、後日、新型コロナウイルス感染防止用の物品がすべて揃う。なお、このことと並行して、ファカルティーオフィス内に空気清浄機や扇風機も調達する。

6月1日【教職課程センターの動き】

遠隔授業のため、4年生は登校できず。課題指導第3弾の開始。4年生に対して、レターパックやメール、LINE会議等で課題の送付(課題の提出締切を6/30)と指導を展開。

6月12日・13日【本学の動き】

入学式に代わる、新入生オリエンテーションを学部・学科別で実施。

6月15日【本学の動き】

この日から一部対面授業を開始。教職科目はすべて対面授業で実施。

6月17日(～7月8日)【教職課程センターの動き】

教員採用試験直前準備講座(1次対策)の開始。教員採用試験の筆記試験で出題される教職教養

(教育原理, 教育法規, 時事問題), 論文や専門教養(国語と英語)に関して, 各担当者から講義を実施。10:40から12:10, 13:00から14:30, 14:40から16:00及び16:10から17:50までの間で集中講義。6月17日, 6月19日, 6月23日, 6月24日, 6月26日, 6月30日, 7月1日, 7月3日, 7月7日, 7月8日の10日間講座。

なお, 英語に関しては実技試験もあることから, 別途, 6月17日, 6月19日, 6月22日, 6月24日, 6月26日に, MLACCのパトリツィア先生とタイソン先生が英語面接練習を実施。なお, これ以外にも空き時間を有効活用して英語面接練習を実施。

7月8日【教職課程センターの動き】

教員採用試験壮行会の開催。

7月12日【教職課程センターの動き】

東京都, 千葉県, 埼玉県, 神奈川県, 新潟県において教員採用一次試験の実施。

7月17日(～9月12日)【教職課程センターの動き】

特別の許可を得て, 教員採用試験2次対策講座の開始。12日に一次試験が終了したばかりであったが, 千葉県の教員採用試験二次試験が8月17日, 東京都の教員採用試験二次試験が8月23日, 東京都の英語実技試験が9月13日に設定されていることから, 各県の一次合格発表前に二次対策講座を実施。7月17日の一次試験受験者全員に対するガイダンスを含めて, 7月22日, 23日, 24日, 28日, 29日, 30日, 8月3日, 4日, 5日, 6日, 10日, 11日, 12日, 13日, 18日, 19日, 20日, 25日, 26日の20日間の各県別二次試験対策講座を実施。千葉県・東京都・埼玉県別個人面接練習, 東京都集団面接練習, 千葉県模擬授業練習(小学校・中高英語), 東京都英語実技練習などを10:40から12:10, 13:00から14:30, 14:40から16:10と3つの時間帯に分けて実施。英語面接練習は引き続きMLACCのパトリツィア先生とタイソン先生の力を借りる。なお, 小学校模擬授業練習においては, 元帝京科学大学教授の釧持勉氏から担当していただく。なお, 一次合格者に関しては, 講座実施予定の日時以外にも, METTS等の教員がサプリメント補習を二次試験直前まで精力的に実施。

7月18日【教職課程センターの動き】

岩手県教員採用一次試験の実施。

7月23日【本学の動き】

学内感染ではないが, 新型コロナウイルス感染者が本学学生で確認されたことから, 6月15日以降, 教職科目はすべて対面で授業実施してきたが, この日から, すべての授業が遠隔授業となる。

7月31日【教職課程センターの動き】

千葉県教員採用試験一次合格発表。

8月3日【教職課程センターの動き】

埼玉県教員採用試験一次合格発表。

8月6日【教職課程センターの動き】

新潟県教員採用試験一次合格発表。

8月7日【教職課程センターの動き】

東京都教員採用試験一次合格発表。

8月11日【国の動き】

介護等体験の代替措置が示される。文部科学省の通知「令和2年度に限り特例的に行う介護等体験代替措置等について」により、小学校・中学校の教員免許を取得するために通常3年生が行うこととされている介護等体験（社会福祉施設等での7日間の介護体験）を免除して代替措置で認定されることが示される。このことにより、後日、本学では、代替措置として示された独立行政法人国立特別支援教育総合研究所開設の免許法認定通信教育の科目に係る① 視覚障害児の教育課程及び指導法か② 聴覚障害児の教育課程及び指導法の教材のうち、いずれかを学生が選択、学修し、学修後に学修報告書（レポート）を提出することで代替えとした。

8月15日【本学の動き】

前学期授業終了。

8月17日【教職課程センターの動き】

千葉県教員採用・二次試験（中高・国語、英語）。

8月18日【教職課程センターの動き】

埼玉県教員採用・二次試験。

8月20日【教職課程センターの動き】

岩手県教員採用試験一次合格発表。

8月22日【教職課程センターの動き】

千葉県教員採用・二次試験（小学校全科）。

8月23日【教職課程センターの動き】

東京都教員採用・二次試験。

9月4日・5日【教職課程センターの動き】

英語科教育法オンライン集中講座の実施。英語科教育法履修者を対象として Zoom でオンライン集中講座を開催。本学卒業生の授業実践報告や METTS の教員による講義。5日には青谷優子氏（元 NHK ワールドニュースアナウンサーで現在はプロ朗読家として活躍）による「聞き手に伝わる声を作る～朗読メソッドを用いて言葉に息を吹き込もう～」と題したワークショップを実施。METTS での初めての Zoom によるオンライン講座となった。

9月11日【本学の動き】

後学期授業開始。後学期の授業は、約8割が遠隔授業であったが、教職科目は対面で授業実施。併せて、後学期に移された教育実習参加学生に対する指導を再開。

9月13日【教職課程センターの動き】

東京都教員採用・実技試験（中高英語）。

10月7日【教職課程センターの動き】

千葉県教員採用試験・最終合格発表。

10月15日【教職課程センターの動き】

埼玉県教員採用試験・最終合格発表。

10月21日【教職課程センターの動き】

岩手県教員採用試験・最終合格発表。

10月22日【教職課程センターの動き】

千葉県教員採用試験説明会の実施。3年生向けに千葉県教育委員会から講師を招いて実施。

10月23日【教職課程センターの動き】

東京都教員採用試験・最終合格発表。

11月5日【教職課程センターの動き】

3年生に対する教員採用模擬試験（スタート模試）の実施。25人が受験。

11月6日【教職課程センターの動き】

教育現場視察研修の実施。英米語学科教職履修2年生9人が千葉市立幕張西中学校の「特別な教科道徳」の研究発表を視察研修。

11月11日【教職課程センターの動き】

東京都教員採用試験説明会の実施。3年生向けに METTS 教員で実施。

11月13日【教職課程センターの動き】

教育現場視察研修の実施。日本語学科教職履修3・4年生14人が都立広尾高校の国語の授業を視察研修。

11月26日【教職課程センターの動き】

教員採用試験合格体験報告会の実施。今年度現役合格した学生から3年生向けに試験合格までの勉強方法などについて報告。

12月14日【教職課程センターの動き】

令和3年度「ちば教職たまごプロジェクト」申請締め切りで、本学英米語学科3年生3人が申請。後日、面接の結果、3人とも参加決定となる。

2021年1月7日【国等の動き】

国は特別措置法に基づく緊急事態宣言を1都3県に発出（2回目）。その後、1月13日には、11都県に拡大。

1月13日【教職課程センターの動き】

玉川大学との連携による「小学校教員養成特別プログラム」に関する2年生対象説明会実施。後日、2021年度からの参加学生を選考の結果、2人を合格とした。

1月13日【教職課程センターの動き】

J-SHINE（小学校英語指導者資格認定協議会）指導者資格申請説明会実施。「小学校英語基礎概論」履修の英米語学科4年生11人が申請手続きを行うこととなった。

1月14日【教職課程センターの動き】

第1回全国公開教員採用模試実施を実施。3年生が受験。10人が受験。

1月19日【本学の動き】

後学期授業終了。

1月21日【教職課程センターの動き】

教職課程センター主催・FD研修会のZoomによる開催。東京学芸大学准教授・高橋純氏から、「教育の情報化の現状とこれから～GIGAスクール構想、プログラミング教育、デジタル教科書～」を演題に研修。教職課程の学生も多数参加。

1月22日【教職課程センターの動き】

教職ボランティア活動報告会の実施。教職履修学生4年生9人が浦安市等で体験した授業補助の活動を報告。

2月14日【国の動き】

厚生労働省がワクチン承認。アメリカの製薬大手ファイザーが開発した新型コロナウイルスのワクチンを承認。2月17日から医療従事者に先行して接種が始まる。

2月17日（～26日）【教職課程センターの動き】

特別の許可を得て、勉強合宿 on Urayasu Campus 教員採用試験対策特別講座の開始。本来3月2日から2泊3日で予定していた勝浦セミナーにおける勉強合宿が緊急事態宣言下となるため、代替として学内で勉強合宿を実施。2月17日の初日から、18日、19日、22日、24日、25日と26日までの7日間。10：00から11：00、11：15から12：45、13：30から15：00、15：00から18：00までの4コマを本学教員による国語・英語試験対策、教職教養対策、論文対策の講座や時事通信社配信の動画視聴による教育原理、教育法規、教育時事、学習指導要領に関する講座及び自主学修の時間を設定して特訓を実施。基本はこの夏に教員採用試験を受験する3年生としたが、1年、2年、4年の学生も参加。

2月下旬からの2週間【教職課程センターの動き】

第3回オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学（UNSW）研修を中止。

3月1日【国等の動き】

国は、1月13日に、愛知県、岐阜県、大阪府、京都府、兵庫県、福岡県に出されていた、特別措置法に基づく緊急事態宣言を解除。東京都、神奈川県、千葉県の緊急事態宣言は予定通り3月7日までとした。

3月11日【教職課程センターの動き（予定）】

第2回全国公開教員採用模試実施を実施。3年生が受験。

3月15日【本学の動き（予定）】

2020年度学位記授与式の実施。卒業生と一部の教員で実施。

3月15日【教職課程センターの動き（予定）】

学位記授与式の後、教員免許状交付式をMETTSにて開催。

3月15日【教職課程センターの動き（予定）】

教職課程センター主催・FD研修会の開催。東京家政大学教授・半澤嘉博氏から、「特別支援教育」を演題に研修。教職課程の学生も多数参加。

ここまで、時系列に国の動き、本学の動きや教職課程センターの動きを中心にみてきたが、本学浦安キャンパスにおける新型コロナ対策全般について述べておきたい。

一つは、新型コロナウイルス感染防止対策のために企業がとる措置により学費支弁者である保護者等の家計急変や学生本人のアルバイト収入の減少等により学業を継続することができない状況の学生が少なからず懸念された。そこで、本学では、4月30日には、国の修学支援金とは別に、本学独自の制度である緊急的経済支援策として、学部、大学院及び別科に在籍するすべての

学生に対し、学修環境整備奨学金（1人5万円）を支給するといった学生緊急支援措置を講じた。併せて休学時の学生納付金（授業料、施設維持費及び教育充実費）を免除し在籍料（5万円）を徴収することとした。また、新型コロナウイルス感染症の直接的又は間接的な影響により家計が急変し経済的に修学継続が困難となった方を対象に、学生がこれを理由に学業をあきらめることのないよう、明海大学修学継続支援特別授業料減免制度を創設した。

二つ目は、新入生にとっては、大学での新しい生活や修学等について、不安を抱えることも多い。そこで、休校中や遠隔授業で大学に来ることができなくとも、学生が気軽に教職員に相談することをサポートするために、新型コロナウイルス感染症に係る学生の学修支援のための「修学継続支援・相談室」を5月20日から設置した。

三つ目は、新型コロナウイルス感染対策である。一部対面授業を開始することとした本学は、非接触型サーモグラフィーの設置の他、飛沫感染防止のためのフェイスシールドの先生への配布・可動式アクリル板の配備、講義棟内の手指アルコール消毒液の配備、アルコール除菌ティッシュの配備、ソーシャル・ディスタンスイングのための講義室内机・トイレ付近の床・エレベーター内におけるステッカーの貼付や学生食堂内等の椅子の間引きなど、大学内感染防止のため万全な対策を行った。

2020年初頭から空前絶後のコロナ禍が現在も続いているが、METTSでは、大池公紀副センター長をはじめ、金子義隆、百瀬美帆、木内和夫、石鍋浩、坂本純一の各先生方の弛まぬ学生に対する指導や事務の樋口真理子さん（2016年5月17日から2020年3月31日まで）、阿部典子さん（2020年6月15日から10月9日まで）や玉貫美幸さん（2020年12月1日から）の献身的な気配りで、新入生を含めすべての教職履修学生をトータルに支援してきたことに敬意を表するものである。また、教職協働でいつも側面から支援していただいた学事課教務の各担当者の皆さまにも感謝の意を表するものである。

特に、特筆大書しなければならないことの一つは、教職課程センター設置後、2020年度は、教職学生の教員採用試験合格者数（現役・卒業生を含む）がコロナ禍の中にあっても過去最高の11人となったことである。内訳は、東京都・中高国語1人、東京都・中高英語5人、千葉県・中高英語1人、千葉県・小学校全科3人、埼玉県・高校英語1人である。

次に、地味ではあるが特筆すべきは、学生の心のサポートについてである。2020年度は、2年生と3年生に対する恒例の個人面談を事実上対面で実施できなく、各先生方がメール等で様々な生活・学習面に関する悩み事や各種相談に応じてきた。また、後学期からは、入学式も経験せず、かつほとんど浦安キャンパスに通学していない1年生に対する個人面談を対面授業の前後等で実施して、心のケアを行ってきたことである。こうした各先生方の面倒見の良さは本学浦安キャンパスにおいて他にはない類なき取組であると自負している。

出口の見えない「コロナ禍」という暗いトンネルの中にあっても、METTSが「チームMETTS」の精神で、お互いの違いやよさを認め合い支え合って「ベクトル」を一つにして学生指導に当たった。今後ともMETTSは、教職課程を履修する学生の夢の実現に邁進する。